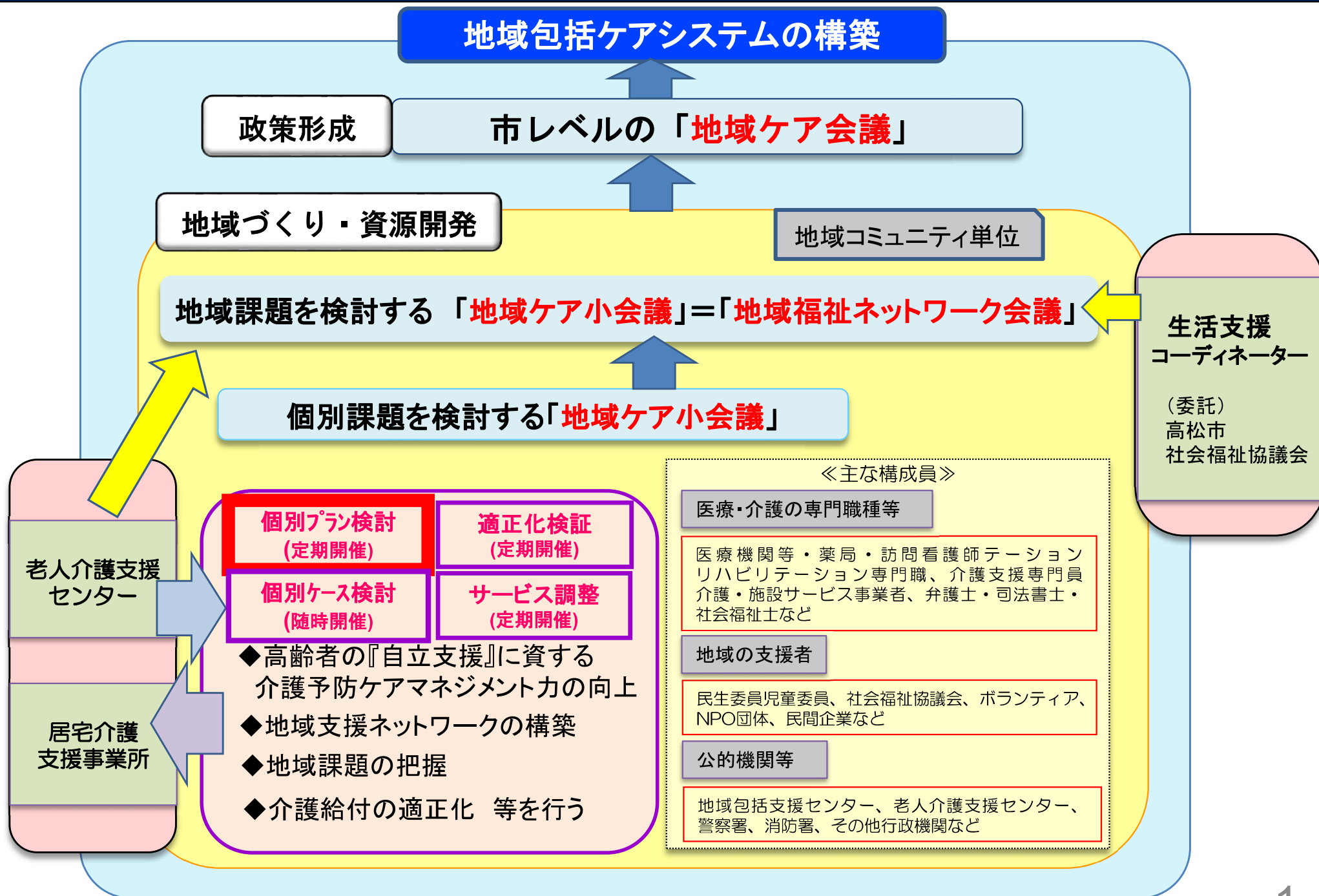


令和2年度第4回 高松市高齢者保健福祉・ 介護保険制度運営協議会	資料5
令和3年2月25日	

地域ケア会議

高松市地域包括支援センター

高松市における地域ケア会議と地域ケア小会議について



地域ケア小会議の開催状況

■ 地域ケア小会議課題別開催回数

			H28 年度	H29 年度	H30 年度	R元 年度	R2 年度 (1月末現在)
地域 ケア 小会議	個別 課題	ケース検討	38回 30事例	19回 18事例	18回 18事例	7回 8事例	11回 11事例
		プラン検討	1回 4事例	13回 41事例	32回 96事例	32回 96事例	32回 96事例
		サービス調整	－	－	－	1回	0回
		適正化検証	－	－	4回 19事例	3回 3事例	3回 6事例
	地域課題 (地域福祉ネットワーク会議)		139回	301回	273回	232回	131回

【目 的】

多職種参加型のケアプランの検討を行うことで、介護支援専門員が、“自立支援”の意味を理解し、自立支援に資する視点を強化し、多様なサービスの効果的な利用に向けたケアマネジメントの資質向上を図る。

また、検討過程で把握した個々の課題から地域の課題として地域ケア会議などに意見としてあげることで政策形成へと導く。



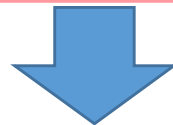
令和2年度 個別プラン検討後のまとめ

対象事例：①要支援1・2及び事業対象者について事例提供者が作成したプラン
②支援困難案件でないケースのプラン
③概ね前期高齢者の更新前2～3か月前のプラン

個別プラン検討が 大変参考 になった	78.8%
ケアプランに 大変役立つ	64.3%
アドバイザーの助言が 大変的確 であった	61.9%

【具体的にどのように活かすことができたか】

- ・利用者へ助言を活かした提案やアプローチが行えるようになった
- ・適したサービスにつなげることができるようになった
- ・多職種と連携がとれるようになった
- ・不足していた情報の収集が行えるようになった
- ・助言をアセスメントに活かせるようになった



利用者の生活や心身の状況が改善した

令和2年度個別プラン検討の中で気づいたこと

- ①介護支援専門員等の計画作成担当者の
“介護予防支援”に対する視点の違い
- ②コロナ禍による高齢者の自粛生活に及ぼす
活動性や意欲の低下
- ③高齢者夫婦のみの世帯への見守りの重要性

①介護支援専門員等の計画作成担当者の “介護予防支援”に対する視点の違い

『定期受診していたので安心していた。』

『高齢者の慢性疾患や症状は改善が難しいだろう。』

『転倒する理由は、筋力低下のためだ。』

と判断

【課題】

本人の生活実態や

治療・処方薬・内服確認・食生活等の情報不足

②コロナ禍による高齢者の自粛生活に及ぼす活動性や意欲の低下

『コロナを理由に家族から外出を止められた。』

『コロナで友達と会う機会が減った。』

等の訴えあり

【課題】

サービス導入のみでなく、高齢者の普段の生活の中で“楽しみ”のある介護予防の取組の提案が必要である

介護支援専門員の地域資源情報の把握不足

③高齢者夫婦のみの世帯への見守りの重要性

高齢者の基礎疾患の悪化
元気に見えても加齢は密かに進行
子どもには心配をかけたくない思い

【課題】

独居高齢者同様に高齢者のみの夫婦世帯も
リスクを抱えている

1 介護予防支援の強化・浸透

2 高齢者夫婦のみの世帯への見守り

1 介護予防支援の強化・浸透

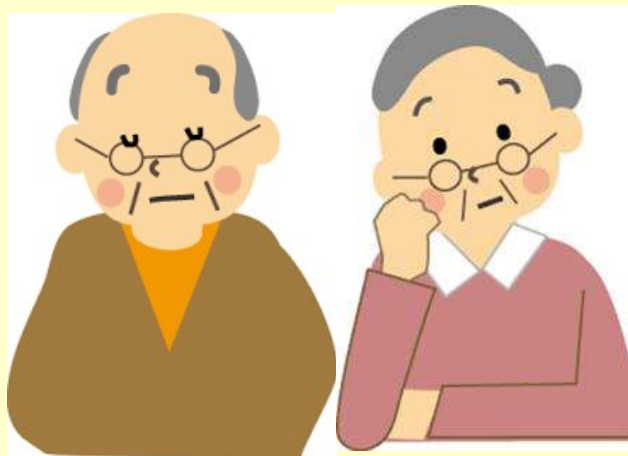
①アセスメント力 強化

- ・介護予防支援・介護予防
ケアマネジメントレベル
別研修会で指導・助言
- ・ケアプラン検討の内容の
共有
- ・地域ケア小会議プラン
検討の質の向上と参加
拡大
- ・多職種連携のハードルを
低くする
- ・自宅での運動、日常
生活も運動として位
置づけ啓発
- ・リハビリ専門職との
同行訪問
- ・本人の“楽しい”を支援

②多職種連携支援

③活動性・意欲 への支援

2高齢者夫婦のみの世帯への見守り



まずは気づきと情報共有



必要な支援へ